

映像	内容
タイトル VTR	オープニングタイトル
スタジオ	<p>田村： お元気ですか！市民のみなさん。麒麟の田村裕です。</p> <p>藤井： 藤井未莉佳です。 さて、いきなりですが田村さんにクイズです。 来年2020年は東京オリンピックなどイベントが目白押しですが、吹田市にとっても特別な年なんです。いったい何でしょうか？</p> <p>田村： めっちゃ簡単じゃないですか。 後藤市長のイベント参加回数が2万回に到達したんですよ。</p> <p>藤井： 毎回、いろんなイベントに登場してますけど。</p> <p>田村： 全VTRに出ていますから。</p> <p>藤井： そのくらいってそうですけど。</p> <p>田村： 不正解なんですね</p> <p>藤井： あ、そうです。吹田市の市政施行80周年なんです。</p> <p>田村： そうですか。へえー。</p> <p>藤井： 吹田市が80歳になるということなんですね。</p> <p>田村： 市政施行ね。</p>

藤井：

吹田市になってから80年を迎えるということなんですね。
そのアニバーサリーイヤーを盛り上げるロゴマークとキャッチフレーズが
この度、発表されたんですよ。それがこちらです。
「あるSUITA、80吹田」というキャッチフレーズなんです。

田村：

80にかけて。

藤井：

そう。8と10で発展吹田。すごいですよね。

田村：

愛ある吹田。なるほど。

藤井：

SUITAの真ん中に小文字のiがあるんですよ。

田村：

敢えて小文字にしてるんですね、こっちで大文字を使ってね。
可愛いらしい。めっちゃ可愛いやん。

藤井：

そうなんですよ。
これは80の文字を土台にしてるんですよ。

田村：

すごい！気付かなかった！すげー、この人！

藤井：

作った人、すごいですよね。
これを土台にして、優しい吹田を表現しています。
昔から吹田にある竹と、市の花「さつき」、吹田三名水の水をあしらった
ロゴマークになっているんですよ。

田村：

なるほど。ちゃんとしてるやん、横にも。よく出来てるなー、これ。

藤井：

可愛いだけじゃなくて、愛が溢れるデザインになってるんですよ。

田村：

意味があるんや。へえー。

藤井：

今後はポスターやグッズなどを作って、80周年を更に盛り上げていくということなんです。私たちも一緒に盛り上がっていきましょう。

田村：

ほんまですね。

藤井：

では、特集です。今回は「あなたの知らない図書館」と題して、田村さんも昔お世話になったであろう「吹田の図書館」を紹介したいと思います。今回も私が取材に行ってきました。

VTR

ナレーション

図書館というと本を借りたり調べ物をしたり勉強に行ったり…といったイメージですね。最近の図書館では本以外にも雑誌や漫画、CDやDVDなど、親しみやすいものや、大活字本や点字本など本が読みにくい人へのサービスも充実しています。さらに、無料のwi-fiスポットもあるんです。

藤井：

千里山・佐井寺図書館にやってきました。
今回はここから「あなたの知らない図書館」を紹介します。

タイトル「あなたの知らない図書館」

ナレーション

千里山佐井寺図書館は、阪急千里山駅から徒歩5分。旧千里第二小学校校舎を再現した西館と繋がっていて、このように教室の中で本を読むことができる雰囲気の良い図書館です。蔵書数はおよそ22万冊。1970年に開催された大阪万博の資料が豊富に所蔵されています。

藤井：

あなたの知らない図書館。まずは「本のスペシャリストに頼っちゃえ！」。

ナレーション

図書館に常駐しているのが、本のスペシャリストの「図書館司書」さん。図書資料の選択や発注、保管、貸出業務などを行う専門職員のことなんですがその専門性と図書館のデータベースを合わせたサービスがこちらです。

藤井：すみません。本を探していただきたいんですが。

司書：はい。ではお探ししますので、どうぞ。

藤井：教科書で小学生ぐらいの時に見た記憶があるんですが。

司書：それは物語ですか？

藤井：詩、ポエムのようなものです。

司書：何年生ぐらいの時か覚えてますか？

藤井：だいたい3、4年生だったと思うんですが。

司書：中身覚えてはりますか？

藤井：はい。たまごのキャラクターが、たまごに手と足が生えてるようなキャラクターが壁の上に座ってる…。

司書さん：はいはいはい。あの、たまごが壁から落ちこちる。

それで、その挿絵もあったんですよね？

藤井：ありました。ありました。

ナレーション

実は図書館で人気なのが「レファレンスサービス」。
昔読んだ本や探している資料などを、年代や挿絵、物語の断片的なあらすじと
いったわずかな情報を聞き取り、図書館司書の記憶やデータベースを利用して
見つけ出すという凄技です。

司書：これじゃないですかね？

藤井：これです！すごい！まさにこれ！これでした。

司書：よかったよかった。

藤井：これがマザーグースの歌の中の一つの詩だったんですね。

司書：そうですね。有名な詩のひとつですね。

藤井：そうなんだ。

ナレーション

これだけの情報であつという間にみつけてくれました。

藤井：あともう1冊調べていただきたいものがあるんですが。

司書：はい。

藤井：何だか、中学生が公園で寝泊まりするような話なんですが。

司書：はあ、ベストセラーになったやつ？ ちょっとお待ちくださいね。

藤井：作者もうろ覚えなんですが・・・

司書：吹田の図書館には30冊以上あるんですけど、この本のことでしょうか？

藤井：そうです。まさにこれです！これもう読まれました？

司書：はい。出たときにすぐに読みました。

藤井：どうでしたか？

司書：あの、悲惨なんですけど面白かったです。

ナレーション

なんとホームレス中学生は「市民が選ぶ子供達に読ませたい本」の中にも
入っているんですよ。すごいですよね。

あなたもこの機会にずっと気になっている本を「図書館のスペシャリスト」
と一緒に探してみませんか？

藤井：あなたの知らない図書館。次は「声を出して読むのもスペシャリスト」

ナレーション

図書館には絵本や児童図書、紙芝居など乳幼児から小・中学生まで子供向けの
図書のコーナーがあるのは、みなさんご存知ですよ。

小さなお子さんがいるご家庭では、おうちに帰って読み聞かせをしてあげたい
のが親心。

藤井：私、絵本を子供に読み聞かせているんですが、なかなか興味をしめしてくれなくて、なんかおかしいのかなと思って。

ナレーション

どこが間違っているのかわからないので、見てもらうことにしました。

藤井：たまごのあかちゃん

たまごのなかでかくれんぼしてるあかちゃんはだあれ？出ておいでよ
ぴっぴっぴ。こんにちは、にわとりのあかちゃん、こんにちは～

司書：お上手です。

ただ、もしかすると子どもさん、半年だったらまだ目も発達してないので、めくってすぐ読まずに、めくったら見せてあげる。

見せてあげて、しばらく待ってから「たまごの中でかくれんぼしてるあかちゃんはだあれ？出ておいでよ」

一呼吸おいて「見れたかな」と思ってからめくってあげると絵と言葉が結びつくと思います。

ナレーション

定期的にごこうした読み聞かせイベントを行っているので、子供達の年齢に応じた本の読み聞かせのテクニックも自ずと磨かれていくんです。

司書：一つの場面にひとつの一つの絵である本。大人であれば（ページの左が）先で（右）が後ってというのがわかると思うんですけど、子供さんはそういうことはわからないので、一つの場面で一つの内容だとパッとみてそれが理解できると思います。

藤井：そうなんですね。

ナレーション

この他にも絵本が初版刊行から20年以上経過している本は、子どもたちから長く愛されている、間違いのない絵本なんだそうです。

こうやって表紙とか裏表紙もしっかり見せてあげるんですよ。

教えてもらって読んでみたんですが、自分が読むスピードが速かったってことに気付きました。

ゆっくり読んであげると、こうして楽しんで一緒に見てくださいましたよ。

藤井：あなたの知らない図書館。次は？

司書：次は「図書館福袋」です。

藤井：図書館の福袋ですか？

司書：本の福袋になります

ナレーション

これは貸し出しているんですが、図書館福袋は様々なテーマに沿った本を司書が選んで、2、3冊をセットにして福袋みたいにしてるんですよ。毎年年初めに行なっています。どんな本が入っているのかは開けてからの楽しみなので、新しい発見があること間違いなしです。

藤井：来年の福袋もあるんですか？

司書：そうなんです。

来年は子年ですのでこういった絵本を選ぼうかなと思っています

藤井：来年用、ちょっとわたしもチョイスしてみたい…。

司書：はい！ぜひ！

藤井：いいですか？

ナレーション

ということで、チョイスしようと思ってるんですが、やっぱり絵本が目にとまりやすいんですよね。なかなか「ねずみ」っていう縛りだと探すのが難しくて、図鑑にも手を出してしまいました。図鑑だったら載ってるかなと思って。いっぱいネズミが載ってましたよ。でも、やっぱり小説、文学に親しんでほしいという願いから一生懸命探しました。選んだ本は、こちら。

藤井：この2冊をチョイスしたんですが、どうですか？このチョイスは？

司書：比較的新しく出版された本と、不動の人気の本の組み合わせで、とてもバランスがいいと思います。

藤井：ですって！選びながらも、今まで知らなかった本と出会えたりするのがワクワクしながら選んでいたんですけど、受け取る側もすごく楽しいですよ。

司書：そうですね。

藤井：自分が選ばなかった世界が広がると思うんですが、こういった新しい取り組みも図書館でしているんですね。

司書：そうですね。普通の図書館以外のイメージの取り組みも、たくさん行なっていますので、よろしくお願ひします。

藤井：いやあ、この絵本今読んでみたんですけど、すごくいい絵本ですね。感動しました。もうちょっと泣きそう。

ナレーション

あなたの知らない図書館。最後は「図書館の裏側」。実は、こんな作業が毎日行われているんですよ。

藤井：これは、何が届いたんですか？

担当者：これは吹田市の別の図書館から千里山佐井寺図書館への返却本、
ないしは予約本が届いたところなんです。

藤井：この本の山、全部がですか？たくさんの箱が届いてますけど、
だいたいどれだけ？

担当者：そうですね。1日にだいたい箱数で16箱ぐらいかなあ？
600冊ぐらいは来てるかなと思います。

藤井：今日だけで？1日でですか？すごい！

これ、いつも夕方の時間帯に作業するんですか？

担当者：夕方に届いて仕分けをしまして、返却本、予約本と分けて、
明日の朝には出せるようにしております。

藤井：忙しいですね。

ナレーション

吹田市立の9つの図書館と自動車文庫は全て連携していて、どこでも
借りたり返したり出来るんです。

そのため、毎日こうやって大量の本が各図書館を行き来しています。

こうやって予約もできるんですよ。そして他にもこんな裏側が…。

藤井：こんにちは。これは何の作業ですか？

担当者：これは利用者さんが読んでいる最中にページが破れてしまったものの
修理をしていました。

藤井：ちょうどこの部分が3cmほど破れてますね。紙ですから、こういう修復
の作業も多いですか？

担当者：そうですね。基本的には破れたり水に濡らしてしまったりとか、
そういったものが多いですね。

ナレーション

図書の修理も図書館の大切な仕事です。

なんと1日に約30冊の本が修理にまわってくるそうです。

雨の日に濡らしてしまったり、ペットボトルについた水滴で濡らしてしまったりする不注意で起こったものから、意図的にページが切り取られているような悪質なものであるんだそうです。

藤井：こんな作業しているのをみたらより丁寧に読まないといけないなと思いました、

担当者：ありがとうございます。

ナレーション

みんなで使う大切な図書はこうした人の手で守られているんですね。

田村：

面白い。

藤井：

知らなかったサービスがたくさんありましたね。

田村：

知らなかったねー。すごいね、図書館。

藤井：

特に「利用してみたい」というのありましたか？

田村：

福袋は面白いよね。

「どの本読んだらいいか分からへん」というのがあから福袋は楽しそうやし、調べてくれるのも良いですね。

藤井：

そうですね。

田村：

そんな便利な機能があるというのは。

もし見つからなくても、会話のやりとりが楽しいというかね。

藤井：

確かにそうですね。

田村：

自分の困ってることを助けてくれているというやり取りが微笑ましいというか、心温まるというかね。

藤井：

本当に一生懸命探してくださるので、長いものだと半年くらいかけて探すというパターンもあるそうなんですよ。

田村：

そうなんですか。本選び褒められた時、嬉しそう過ぎますよ

藤井：

嬉しいですよー。

田村：

「ですって」は、やらしいコメントでしたよ、あれ。

藤井：

だって、プロフェッショナルな方に褒められてるんですからね。

田村：

そうですけど、採用されたわけじゃないんでしょ？

藤井：

え？（採用）してくださらないんですか？ 図書館の…。

田村：

そりゃ、しないでしょ。プロが選ぶでしょ。

藤井：

「お元気ですかスペシャル」と題して入れてほしいなーと思ってます。

田村：

内容分かってるやん！

藤井：

あ、そっかあー。

田村：

見てない人が「お元気ですか」を知ってて選んでくれたらいいけど。

藤井：

あれとホームレス中学生を抱き合わせで3冊セットにして。

田村：

いやいや、販売になってるやん。レンタルやん。

抱き合わせって言い方、悪いやろ。

藤井：

そうですね。

ということで、吹田には分室も含めて9つの図書館があるんですが
来年、新しく10個目がオープンするんですって。

田村：

新たに出来るの？

藤井：

今話題になってる健都に10個目の図書館。

田村：

建都、すごい勢いで発展していくね。

藤井：

建都ライブラリーというのが出来るそうなので、
これから吹田の図書館にも注目ですね。

田村：

立派な図書館出来るんでしょうね。

藤井：

きっと新しいサービスが出てくると思います。
読書の秋、市内の図書館へお出かけしてみてもいいでしょうか。
以上、特集のコーナーでした。

ワンポイント手話（56秒）

田村：

続いては「田村の一本勝負！」

(タイトル)

田村：

ということでございます。

藤井：

始めて聞くタイトルですが、新コーナーですか？

田村：

新コーナー始めましたね。

このコーナーはですね、吹田にお住まいのあらゆるジャンルの「凄腕さん」に僕が一本勝負を挑もうという。

藤井：

一本勝負？すごいですね。

田村：

そうです！一本勝負。新企画でございます。すごいですよ、本当に。今回は吹田に「凄腕の主婦」がいるということで勝負を挑んできました。それでは、ご覧ください。どうぞ。

<VTR 田村の一本勝負>

田村：

こんにちは。めっちゃ普通の女の人 came。凄腕の主婦さんですか？えー！何の人なんか全然分かん。

和田：

こちらの方に一緒に。

田村：

何の凄腕？全然分かりません。

和田：

可愛い女の子がいっぱいいます。日本の平和を…。

田村：

日本の平和を守る？なんや、こいつ！

和田：
まずは吹田から守っていこうと。

田村ナレーション

さあ、案内され歩いていると、あるところに到着しました。
ここでしばらく待つように言われて待つことに。
さてこの女性、いったい何者なんでしょうか？
待ってまーす。早く来てねー。

田村：
あれ？

和田：
お待たせしました。

田村：
何それ！？見せてください。旋拳道？ 副師範ですやん！
すごい人ですやん！こんな可愛いらしいのに？ 旋拳道って何なん？

田村オフコメ

なんとこの方は旋拳道の福師範、和田絵里さんです。
旋拳道って聞いた事ありますか？
旋拳道とはテコンドーから派生した吹田発祥の護身武道で、
子どもから大人まで安心して練習する事ができる新しい武術なんです。
和田さんは副師範として子ども達への指導や普及活動をされている
そうです。

田村：
誰が作ったんですか？

和田：
うちの総帥が。

田村：
作った人？

小松：
はい。治安が悪くなってくると自分で身を守らないといけないと思って
みんなが出来るように考えました。

田村ナレーション

それでは今回は一本勝負ということで、無謀にも和田さんに勝負を挑んでみました。

和田：

私の後ろに抱きついていただいて、私がそこから抜け出せたら私の勝ちです。抜け出せなかったら、田村さんの勝ち。

田村：

マジっすか？ どっちみち、おいしいじゃないですか。抱きつきまでOKなんでしょ？ 抱きつきスタート？

和田：

はい。

田村：

ありがとうございます。

田村：

ウハハハハ。捕まえたぞ！和田！
ヤバイヤバイ、うわー。
おお、すごい。

和田：

背負い投げみたいな感じの。

田村：

体格差をうまく使われた感じ。

和田：

女性でも出来るような技をってことで練習してるんですけど。

田村：

何をしようと思ってるのか分からへんから、目的が分からへんから
気付いたら寝転がってる状態でした。
「姉ちゃん、酒飲もうや」みたいな。「一緒に飲もうや」って来られたら…。

和田：

来られたら…

田村：

うおーーーー。

ごめんなさい。お金だけ渡すから、自分だけ飲みに行ってきた。

でも、そんなに力使ってないでしょ？

和田：

そうですね。

田村：

すごい。持つ場所と力の入れ方だけ。

これは凄いですわ。力のない女性でも出来ることを証明してくれてる。

すげー！

田村ナレーション

和田さんは小柄ながらもカラダの使い方次第で強い蹴りやパンチをくり出す事ができるんです。このミット打ちすごいでしょ？

田村：

こんな新しい武術が吹田から生まれてるなんて知らなかったです。

日本の安全、吹田の安全のために、これからもよろしくお願いします。

ありがとうございました。

(スタジオ顔出し)

田村：

すごくない？

藤井：

すごいです。

田村：

吹田から新しい武術が生まれてるんですよ。

藤井：

吹田発祥なのが凄いですし、しかも、あんな小柄な女性が田村さんを投げ飛ばして。

田村：

決まってるんですよ、投げる時に。だから、自分からそっちにいかないと痛めちゃうから、どこかを。よく出来てるんですよ。

藤井：
新しいスポーツというか、新しい武術なんですか？

田村：
新しいです。あの師範代が作ったんです、新たに。

藤井：
あの方も若かったですよね。

田村：
ずっとテコンドーをやられてて、もっとこうやったらみんなが使いやすいとか、女性でも出来るとか、もっと護身術になるのにな、ということで考えはったんです。

藤井：
誰でも教室とかにいったら学べるんですか？

田村：
いけます。学べますし、あの日は昼間に行ってるんで居てませんが、普段は子どもたちもいっぱい習ってるみたいで。

藤井：
写真も出てましたもんね。小さい子たちが。

田村：
良いですよ。本当にやりやすいので。

藤井：
危険な人、痴漢とか撃退できますもんね。

田村：
それをする術があるということを知っとくだけでも違うじゃないですか。何も分からへん恐怖よりは、最悪、手首決めたらなんとかなるわっていう知識を入れると。

藤井：
今回は旋拳道でしたけど、これからもどんどん一本勝負を挑んでいくんですか？

田村：
はい！
本当に何でも受け付けておりますので、どんどん挑んできてください。

藤井：
応募するシステムなんですか？

田村：
応募していただくと、こちらのリサーチが非常に助かります。
生け花がすごく得意なので一緒にやりませんか？とか、いろんなもの。
もちろんバスケでもいいですし、バスケ以外のスポーツでも、
料理でも、なんでもいいです。

藤井：
ふれあいの場になりますね。

田村：
吹田の凄腕さんであれば、なんでもいいですよ。

藤井：
ぜひ田村さんを倒してくださいね。

田村：
ぜひとも一本勝負させていただけたらと思いますので、
どんどん送ってください。自薦他薦問いませんので、
ナイトスクープかお元気に送る…

藤井：
ぜひ、お元気をお願いします。

田村：
…システムをお願いします。以上、「田村の一本勝負」でした。

スタジオ

田村：

続いては、市内の出来事などをご紹介します「吹田のトピックス」です。

藤井：

今回は秋の話題を2つご紹介します。

藤井 ナレーション

10月26日、北千里市民体育館前の竹林と千里北公園を会場に「千里の竹あかり」が開催されました。

これは、吹田市に残る千里丘陵の原風景である竹林を利用したイベントで、竹に親しみ千里の竹林の保全意識を高めてもらおうと、市が毎年開催しています。

会場となった竹林やその周りの遊歩道には、現地で伐採した竹にろうそくを浮かべた「竹あかり」およそ3500本が、星空や天の川などをイメージして配置。

訪れた人たちは優美な世界に浸ったり、写真を撮るなどして竹と光のファンタジーを堪能していました。

また会場に設けられた特設ステージでは、アカペラやマンドリン、吹奏楽の演奏などが行われ、幻想的な雰囲気の中、会場を盛り上げていました。

(インタビュー)

ろうそくがいっぱいあって綺麗でした。

天の川みたいな所もあって、上の方まで灯が続いている所もあって、とっても夢のようでした。

とても綺麗で心が洗われました。

高校生の演奏がすごい良かったです。

あと竹あかりも綺麗で、むっちゃ良かったなあと思います。

藤井 ナレーション

10月31日、JR南吹田駅近くの農地で「コスモス鑑賞・花摘み会」が開催されました。

これは地元農家の方が、秋を代表する花・コスモスを栽培した畑を市民の方に開放し、花とみどりにふれあってもらおうと毎年開催しているものです。

この日は暖かい陽気の中、事前に申し込んだ市民およそ70人が参加しました。

参加した人たちは それぞれに気に入ったコスモスを摘んだり、記念撮影をしたり、都会の中の花畑で秋を満喫していました。

(インタビュー)

何本とか決まなくて、いっぱい、持てるだけって言われて、デイサービスにも持って行きたいなと思って沢山頂きました。

都会の中だと、もう何かコンクリートジャングルみたいな感じなので、こういう緑があるっていうのは、大人にとっても子どもたちにとってもすごい良いと思います。部屋の中もちょっと女の子らしくなれるかなって思います。すごい楽しかったです。

藤井：

お花を摘んで家に飾ったら、秋満喫できますもんね。

田村：

ほんまやね。季節感が出て良いですね。

わざわざ農家の方が栽培してるのを摘ませてくれるって優しいね。

みんな、ちゃんと知ってるね。70人も参加してるもんね。

藤井：

そうですね。

田村：

みんな、ちゃんと把握してるんやな。

藤井：

恒例のイベントなのかもしれないですね。

以上、「吹田のトピック」のコーナーでした。

田村：

もう12月かー。師走に突入していくの？

藤井：

そうなんですよね。

田村：

すごいな。早っ。

藤井：

みなさん、師走って忙しくなりますよね。

田村：

いろいろやらなあかんことがね。大掃除とか年賀状とかね。

藤井：

年賀状とか毎年作ってるんですか？

田村：

ここ数年間に来た人にだけ返す形の。またどうせ今年もくるでしょうって。

藤井：

そうですね。

田村：

あとはメールとかLINEで済ませちゃいますけどね。

藤井：

本当に忙しくなってきたので、師走に入ると。

それに寒くなってきましたしね、朝晩が。

体調崩さないように気を付けてくださいね。

田村：

それでは、またお会いしましょう。さようなら。